

2024年度上野千鶴子基金助成金最終報告書（HP掲載用）

1．助成対象事業	SDGsの諸課題解決に向けた活動
2．事業の区分	一般プロジェクト
3．氏名/団体名	一般社団法人buddy bouquet
4．事業名	SRHR実現のためのCEDAW(女性差別撤廃委員会)日本審査に対するアドボカシー活動
5．助成額	
6．事業実施期間	2024年 9月～ 2024年 11月
7．リンク	https://nandenaino.com/

8．事業の目的

SRHRに取り組む7団体でCEDAW市民社会共同レポートを作成しCEDAW委員会に提出、実際にジュネーブにも赴き委員への直接のアドボカシーを行うことで、2024年CEDAW日本政府審査において、SRHRに関する勧告を出してもらうこと。

関連して、CEDAWと出された勧告について、国内一般(特に若者)向け、また議員向けに周知活動を展開すること。

これらを通して、日本におけるSRHR実現、ジェンダー平等実現に向けた取組みの一層の強化をはかること。

9．実施内容

【ジュネーブでのロビー活動】

- ・ SRHRに関する7団体でのCEDAW市民社会共同レポート作成、CEDAWに提出
- ・ ジュネーブにおけるCEDAW委員に対するロビーイング活動
- ・ 現地記者向け記者会見

【国内でのロビー活動】

- ・ 日本でのCEDAW前後での議員に向けた活動（ロビーイング活動、勉強会開催等）
- ・ CEDAWについての日本国内での周知活動（記者会見、CEDAWについて学ぶイベントの定期開催、9月東京駅での第2回SRHRスタンディング開催、記事執筆やSNSでの発信）

10. 事業の成果と自己評価

ジュネーブでのロビー活動

ジュネーブでは、積極的に委員へのロビー活動を行った。現地での委員とのやりとりに加え、追加文書を6本提出するなど、ほとんど眠る間もないほど目まぐるしく活動した。その成果もあってか、私たちの求めた中心的な主張のほぼすべてが取り上げられ、日本におけるSRHRの課題とその解決策が「勧告」として明文化された。

さらに、勧告のうち、2年後に書面での進捗報告が求められる4つのフォローアップ項目のうち、一つは緊急避妊薬を含む避妊薬へのアクセス改善、もう一つは中絶の配偶者同意撤廃に関するものであった。また、ロビー活動を緊密に連携して展開した一般社団法人あすにが取り組んだ選択的夫婦別姓についても勧告がなされるなど、大きな成果を上げることができた。

国内でのロビー活動

国内では、皇室典範の議論が注目を集める中、それだけではない、CEDAW（女性差別撤廃条約）そのものや勧告全体に関する報道も多くなされた。私たちの記者会見なども大手メディア含む各社で取り上げられ、福田もCEDAWについての単独取材を複数受けている。

それらの成果もあってか、皇室典範に関する勧告への抗議として、政府が任意拠出金の使途からCEDAWを除外する方針を示した際には、SNSなどで多くの人々が即座に反対の声を上げ、大きな話題となった。同時に、多くの女性団体が政府の対応に対し遺憾の意を表明した。私たちもSRHR市民社会レポートチームとして署名活動を実施し、2万4千筆の署名を集め、外務省に提出した。政府の判断は撤回されていないものの、ロビー活動を共に行ったこ

とで、必要なタイミングで即座に複数団体が連携できたこと、さらに署名活動自体がCEDAWの認知向上に寄与した可能性がある点を前向きに評価している。

現地での学び

今回はじめてCEDAW勧告プロセスに関わって、「声を上げられる仕組みの重要性」「声を聞く側の姿勢の大切さ」、そして「声が実際に政策に反映されることの必要性」を改めて実感した。日本国内では、政府や官僚の答弁に無力感を覚えたり、政策提言やパブリックコメントが反映されず、単なるガス抜きのように扱われた感覚や、自分たちはこの国で大切にされていないんだという感覚に陥ることがとても多い。

しかし、CEDAWでは、声を聞くプロセスが単なるパフォーマンスではなく、提供されたデータが実際に多くの場面で活用されるなど、女性差別をなくし、ジェンダー平等を達成しようという委員たちの熱意と真摯な姿勢を何度も実感した。「これも権利なんだ」「大切な問題だと思っていいんだ」と、議場で涙したほどである。政策提言を行うことで無力感を抱くのではなく、むしろエンパワーされるという経験をしたのは、今回が初めてだった。

今後の展望

これらを踏まえ、今後、CEDAWの建設的対話の映像などを活用し、主にユースを対象に、条約や勧告の周知を図るとともに、第六次男女共同参画基本計画への反映を目指した政策提言ワークショップを実施する予定である。

引き続き、CEDAWの認知度向上と、条約および勧告の政策への反映に尽力していきたい。また、ジュネーブでの経験を通じて感じた、「自分の声大切にされている」「声を上げる価値がある」という実感を、日本国内でも得られるような場を提供し、エンパワーメントの機会を創出していきたいと考えている。

最後に

私が報告の中で「上野千鶴子基金の支援を頂いて、渡航が実現した」と述べた際、多くの人々が頷きながら共感を示し、中には「そのこと自体にシスターフッドを感じる」「こうした基金が存在することに勇気づけられる」といった声を寄せてくれたひともいた。私自身も、経済的な支援だけでなく、精神的にも大きな励みとなった。この貴重な経験は、本基金の助成なしには成し得なかった。心より感謝申し上げたい。

11 . 成果物

- CEDAW委員アドボカシーに使用した資料
 - シャドーレポート
 - ファクトシート
- チラシ等を含むイベント資料
 - 事前・ 事後 イベントチラシ 5 種類
 - 基金ロゴ入り福田発表資料
- 写真
 - 事前記者会見 1 枚
 - ジュネーブでの写真 6 枚
 - 帰国後の写真 2 枚 合計 9 枚
- 関連記事
 - 6種類 うち 2 種は個別取材